

(10月の果実見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年 入荷量(t)	前年 占有率 (%)	
みかん類		18,947	89	17,822	149	147	177	-	-	熊本、長崎、愛媛産の入荷で8割を占める。極早生全体の計画出荷量は前年より微減の見方。しかし、小玉果、日焼け果などの発生のため下方修正の懸念がある。入荷量は前年を下回り、価格は前年を下回る見込み。
かき類		10,856	80	9,985	193	141	219	73	0.7	和歌山、奈良産の入荷で9割を占める。両県産とも刀根早生に続き、平核無が入荷する。本年産は着果量が少ない中、夏場の高温で生育が遅れ、着色の遅れや日焼け果の発生などが多い傾向。そのため、入荷減単価高で進んできた。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。
りんご類		9,748	100	8,960	209	106	245	2,368	24.3	青森、長野、山形産が市況をリードする。前半はつがる中心に出回り、その後は中生種が主体となる。早生ふじも順調な入荷が見込まれる。早生種は小玉であったが、中生種以降は果実の肥大は回復傾向。果実品目は品薄傾向であることから、りんご類の引き合いは強い。全体の入荷量は前年並、価格は、前年を上回る見込み。
なし(ラフランス)		1,044	100	856	228	105	267	781	74.8	山形、長野産中心の入荷。主力の山形産は台風の被害もなく、順調な入荷が期待される。果実の肥大は平年並で販売しやすく、食味も期待できる。果実品目は品薄傾向のため、ラフランスの価格は堅調と予想される。全体の入荷量は前年並、価格は前年を上回る見込み。
ぶどう類		1,934	90	2,291	561	110	584	97	5.0	長野産中心の入荷。巨峰中心の販売となる。10月後半からは引き合いは強まり、価格も堅調になる見込み。入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。